

ABC ACPI91 ASEAN307 CD市場242 EC経済圏307 ECU313 EMS313 GATT276 GNE38 GNP35 GNPデ
フレーター361 AEAI831 EAI97 IMF305 Jカーブ効果293 NNW40 ODA308 OECD305 OMA275 SDR

314 SDR代替勘定312 STAB **ア** アウトライト取引289 アジア・太平洋経済圏307 一般消費税216 医
EXI91 UNCTAD305 WFC185 療倒産101 医療保障82 インターバンク預金市場242 インデクセ
ション118 インフラストラクチャー301 インフレ会計125 インフレーション109 インフレ対策117 ウ
ィッターフェーン構想308 英国病52 エネルギー輸入依存率179 エンゲル係数66 円高差益123 円高差
損292 沖合掘削 **カ** 外貨準備高284 外貨預託284 会計年度206 外国為替288 外国為替相場289 外部資本

181 卸売物価110 159 海洋資源189 海洋分割時代193 価格の下方硬直性120 垣根論争240 過剰ドル312
過剰流動性263 可処分所得39 寡占価格120 貨幣数量説259 カルテル120 為替差益292 為替差損292 緩衝
在庫190 間接金融236 管理された貿易275 管理通貨制252 企業数158 企業社会154 企業年金95 技術革新
133 規制金利265 キチンの波144 義務的経費213 キャッチ・アップ169 キャッシュレス250 共済年金96
協調ある行動300 共通基金192 狂乱物価111 漁獲制限196 緊急輸入280 均衡予算主義218 金・ドル本位
制310 金廃価315 金本位制252 金約款315 金融資産231 金融資産負債残高表45 金融収益164 金融負債231
金利自由化266 金利体系265 クラウディング・アウト264 クリーピング・インフレーション113 黒

字減らし280 経営力指標165 景気安定化政策148 景気感130 景気関連指標149 景気循環143 景気変動142
経済計画51 経済主体41 経済成長率36 経済34 経済の意味34 経済力指標298 ケインズ主義49 ケネ
ディラウンド276 現金通貨251 健康保険98 現先市場242 建設国債の原則217 減量経営73 公営事業会
計213 公開市場操作261 公害防止投資138 公共財202 公債215 厚生年金96 構造不況業種169 公定歩合操
作261 高成長経済131 購買力平価説291 高福祉高負担85 国債依存度218 国際金融資本市場244 国際収
支283 国際収支の天井135 国際収支表42 国際商品協定190 国際商品取引所195 国際公華42 国富統計

45 国民所得37 穀物市況187 国際海洋法会議193 コスト・プッシュ・インフ[根]論争240 過剰ドル312
定相場制291 固定費157 古典派経済学49 コモディティフロー法46 雇用者所益292 為替差損292 緩衝
合経済50 コンド **サ** 債権国287 財政202 財政投融资計画210 債務国287 債務者 企業年金95 技術革新
ラチェフの波148 ーベイ調査149 サミット306 産業構造の高度化166 産業[レス]250 共済年金96
43 産業労働人口134 サンシャイン計画182 暫定予算206 三面等価の原則37 三[主義]218 金・ドル本位
資金運用部資金210 資金不足部門226 資金偏在243 資金余剰部門226 資源ナシ 融収益164 金融負債231
最適配分47 資源保護196 自己資本比率159 自主財源214 市場金利265 自然成立2[インフレーション]113 黒
実質金利269 実質所得112 実質賃金58 実物資本39 ジニーの集中度係数65 シ[気]循環143 景気変動142
会契約300 社会資本84 社会保険負担率85 社会保障83 収支相当の原則85 自[ケインズ主義]49 ケネ
用制72 住宅取得能力指数88 需要の所得弾力性166 準通貨251 準備率操作261 量経営73 公営事業会

読みこなし・使いこなし・自由自在

経済が わかる事典

山一証券経済研究所著

読みこなし 自由自在
使いこなし

経済がわかる事典

¥ 1200

昭和54年 7月20日 初版発行

昭和55年 5月30日 第41刷発行

著者 山一証券経済研究所

発行者 中 村 進

発行所 株式会社 日本実業出版社

東京都千代田区三崎町3の5の3 ☎ 101

☎代表03 (264) 3781 振替 東京 7-25349

大阪市北区西天満6の8の1 ☎ 530

☎代表 06 (362) 6141

印刷所 壮光舎印刷株式会社

製本所 共栄社製本印刷株式会社

落丁、乱丁本はお取替え致します

© Yamaichishokenkeizaikenkyusho 1979

2000-410537-5915

はしがき

新聞を毎日ごらんになっていると、最近は一と頃にくらべ、経済欄がとりわけ充実してきていることに気がつくられることでしょう。スペースもグンと増えていますし、内容的にも高度なものが盛り込まれるようになっていきます。

これは一口に言って、「経済」についての関心度が深まったことによるものです。戦後の高度成長で、わが国は経済大国にのし上がったことや、国際的な経済交流が盛んになってきたことを背景に、「経済」の動きが、私たちの生活に影響する度合が増してきたため、「経済」をもっと知りたいというニーズが高まっているからです。

しかし、新聞の経済欄を正しく読みこなすのはなかなか容易ではありません。新聞はどうしてもニュース中心になりがちです。そのニュースの背景とか、経済現象についての論理の筋道がわかっていないと、全体像がつかめなくなってしまうからです。

たとえば、円レートが二一五円になったというニュースのもつ意味を正しく理解するためには、為替レートはどのようなメカニズムで決まるのか、最近のレート推移はどうだったのか、為替レートと物価・国際収支、さらには金利との関係についての一応の知識がどうしても必要となります。こうした知識は、いろいろな用語辞典類を参照することによって、手に入れることができます。

しかし、現在市販されているものには、経済を研究することを専門としないしろろの方々の必要にピッタリ合ったものは少ないように思えます。経済学辞典には「経済学」に関する完璧な解説がありますが、少し詳しくすぎる点と、カレントな用語が乏しい点に問題があります。他方、経済用語辞典などでは、用語の数では豊富ですが、内容が簡単すぎるくらいがあります。

今日、ビジネスマンや学生の方々を対象にして、「実践的で使いやすい事典」を編さんしようとしたのも、こうした「帯に短し、たすきに長し」といった悩みを解消しようと考えたためです。説明は本筋に沿ってできるだけ平易にしたつもりですし、また、グラフや図を多く載せましたので、経済について具体的にわかっていただけるものと期待しています。

本書はそのまま読みくだしてもいいし、新聞や雑誌をみて疑問に思ったたびに参照するといった利用の仕方でも結構です。どちらの使い方でも便利のようにと配慮したつもりです。

ただ、読み込むにしたがって、「経済」は学べば学ぶほど複雑だということがわかってくるはずです。そこで、知識をさらに深めたい方は、章のはじめに紹介した参考文献について勉強されることをおすすめします。

一九七九年六月

山一証券経済研究所

経済調査部長 福山真弘

この本の 特色と使い方

奥行きが広い経済には、さまざまな学び方があります。ざっと読んで経済知識を身につける法、一通り読みこなして経済の通になる法、さらに関連項目を合わせ読んで専門家はだしの実力をつける法——それら、どんな読み方にも通用するのが本書です。好みの読み方で活用してください。

【読み方・その1】三か月でマスターする法 本書では経済の諸問題を一二の視角からあますところなくとらえています。ひとつの分野ごとに二〇の項目を設け、それぞれに一ページ読み切りの解説をつけましたから、かりに一日平均三ページのペースで読んだとしても、一週間で一章分すみ、一二週間（三か月）あれば経済の基本事項はすべてマスターできます。

【読み方・その2】徹底的に勉強する法 経済は間口・奥行ともに広大な学問です。たとえば、身近な物価問題ひとつをとり上げても、それは産業や流通・消費者という当事者間の問題であるとともに、インフレや経済政策による影響でもあります。そして、なぜインフレになるのか、どうしてある特定の経済政策をとらなくてはいけないのかと問題の背景まで考えたときに、人口構成の推移、資源状況、社会福祉程度、世界経済の動向にまで関連していることを知るわけです。

ですから本書を読む場合にも、一つの項目を読み終えたときに、それと関連する別の項目、そのまた近接するほかの項目という具合に“いもづる式”に知識の網を広げていくことによって、はじめの知識はより確かになり、問題自体の把握もより深くなることでしょう。

また、本書を出発点として、それぞれの章のはじめに紹介した図書を読み進めば、経済については専門家の域にまで到達するはずです。

【読み方・その3】現代の経済情勢を知る法 基本事項の解説には最新の資料を使い、あわせて今後の動向を述べておきましたから、本書の読者には自然と私たちを取りまく時代環境がわかります。

しかし、たいへん忙しいので、手とり早く現代経済が抱えている問題のアウトラインだけでもつかみたいという人には、目次にさっと目をとおすことをおすすめします。ここには、本書の内容の全項目と、各項目ごとの要点を簡潔にまとめた文章がついていますので、それだけで揺れ動く現代の姿がとらえられます。

【読み方・その4】用語事典として利用する法 一応この本を読み終えた後でも、新聞や雑誌や日常の会話などで経済に関する問題につきあたることがあるでしょう。もう一度正確な知識を頭の中に叩き込んでおきたいときは、この本のカバーが索引になっていますので、経済用語事典として利用することができます。

目

次

1 * * * 国民所得と経済機構

国民所得 1	経済という言葉を字引でひけば	経済とは、人々の暮らしが豊かになるように、自ら、あるいは政府などが行なう行為のこと。	34
国民所得 2	G N P は国全体の生産額	国民の暮らしをよくするには生産を増やすことが大切。G N P とは国全体の生産額のこと。	35
国民所得 3	実質 G N P と名目 G N P の違い	G N P をある特定の時点の価格で測ったのが実質 G N P。その年々の増加率が実質成長率。	36
国民所得 4	作って稼いで消費する	G N P と似た概念に国民所得があり、ともに生産・分配・支出の三面から計算できる。	37
国民所得 5	消費と投資はどこが違うか	支出には消費と投資と輸出がある。国民総支出はこれらの合計から輸入を差し引いたもの。	38
国民所得 6	労働と資本は車の両輪	生産を生み出すもとは労働力と実物資本。投資額と貯蓄額は一致する。	39
国民所得 7	くたばれ G N P 論議と N N W	G N P の増加は福祉充実とは無縁との批判から、N N W などの福祉指標が開発されている。	40
経済循環 1	あなた稼ぐ人、私使う人	家計・企業・政府の役割はそれぞれ違うが、互いに協力しあって生産物や所得を生み出す。	41
経済循環 2	国際間の取引の場合には	経済の発展には外国との取引も重要。外国との取引は物、サービス、資本と多角的。	42
経済循環 3	産業間の流れを示す産業連関表	生産額や価格の流れをつかむには、産業同士の関係を表わした産業連関表が役に立つ。	43

経済循環 4	お金の流れをつかむには	お金の流れは、各主体の金融資産や金融負債の変化という形でつかむことができる。	44
経済循環 5	フローとストックの関係は	投資のように一定期間に生み出されるのがフロー。フローの積み重ねがストック。	45
経済循環 6	便利になった新 SNA	新 SNA で、フローとストック、モノとカネの動きを多角的に見ることが可能となった。	46
経済機構 1	アダム・スミスの「見えざる手」	ブライス・メカニズムとは、自由主義社会で個人の利益と社会の利益を調和させる機能。	47
経済機構 2	経済の効率化を阻むものは	いろいろな形で競争が制限されている。独禁法も競争市場を取り戻すうえでは力不足。	48
経済機構 3	古典派経済学とケインズ経済学	一九三〇年代の世界恐慌後、有効需要政策を重視するケインズ主義が登場。	49
経済機構 4	混合経済と政府の役割	混合経済における政府の役割は、①所得再分配、②総需要管理、③資源配分である。	50
経済機構 5	経済計画について	混合経済下では経済の計画化がある程度可能だ。日本でも中・長期計画が発表されている。	51
経済機構 6	福祉政策と英国病	福祉政策の行き過ぎは経済を停滞させるとの考えがあるが、福祉論者は否定している。	52
経済機構 7	安上がりな政府を望む声も	政府の過度な介入は個人の自由を奪い、経済の活力を失わせるとの批判も出ている。	53
経済こぼれ話	アダム・スミス		54

2

***暮らしの経済

賃金と所得 1	名目賃金と実質賃金	賃金には名目賃金と実質賃金がある。実質賃金は名目賃金を物価指数で割ったもの。	58
賃金と所得 2	大企業と中小企業の賃金格差	高度成長の過程で労働力不足が生じ、大企業と中小企業の賃金格差は縮小した。	59
賃金と所得 3	賃上げと生産性	生産性の向上を上回る賃上げが行なわれれば、賃金コストの上昇から物価が引き上げられる。	60
賃金と所得 4	年功序列賃金の功罪	高齢化社会の到来を迎え、年功序列賃金などの日本的労働慣行も修正を迫られている。	61
賃金と所得 5	国際収支黒字は低賃金のせい	賃金水準向上、円相場上昇で、低賃金による輸出攻勢との批判は根拠を失いつつある。	62
賃金と所得 6	賃金だけが所得ではない	所得には生産への寄与のしかたにより、雇用者所得、配当、利子、賃貸料などの種類がある。	63
賃金と所得 7	国民所得の構成の推移	雇用者所得の地位向上、個人業主所得の地位後退が産業構造などの変化を示している。	64
賃金と所得 8	所得分配は平等か	所得分布の不平等の程度はジニー係数で表わす。わが国では所得の平等化が進んでいる。	65
消費と生活 1	エンゲル係数とは	消費支出の中に占める食料費の割合(エンゲル係数)が低いほど暮らし向きはよい。	66
消費と生活 2	必要財から選択財へ	所得水準の上昇により、家電製品など耐久消費財の普及率はきわめて高い。	67

消費と生活 3	「モノばなれ」とは	所得水準の上昇につれて、消費支出の重点は「モノ」から「サービス」に移っている。	68
消費と生活 4	消費性向とは	所得のうち消費に向けられる割合を消費性向といい、消費意欲を表わす。	69
消費と生活 5	生活水準の平準化	農家世帯と都市勤労者世帯の生活水準格差は、高度成長の過程で急速に解消した。	70
消費と生活 6	生活水準の国際比較	わが国の生活水準は、社会資本、住宅など、ストックの面での立遅れが目立つ。	71
雇用問題 1	終身雇用制はなくなるのか	日本独特の雇用慣習である終身雇用制は曲り角にきているが、多くのメリットもある。	72
雇用問題 2	失業者が増加した原因は	低成長経済下、企業によって強力に推進された減量経営により、中高年齢に失業者が増大。	73
雇用問題 3	定年制は本当に延長されるのか	従来は五五歳定年制がふつうだったが、今や五七歳が平均に。将来は六五歳へ？	74
雇用問題 4	第三次産業では就業者が増加	第三次産業にはマン・ツーマンの性格があり、今後、技術構造が変化しても労働力は必要。	75
雇用問題 5	女性労働者が急増したのは	余暇の増大などにより、ここ三年の女性労働者の増加率は男子の倍以上になっている。	76
雇用問題 6	金の卵と窓際族	昭和三〇年代、四〇年代前半には人手不足に悩んだ企業も、今では人が余ってポスト不足。	77

3 *** 社会福祉と老後の生活

社会保障 1	社会保障とは	不時の備えを社会のシステムに組み込んだもの。年金などの所得保障、医療保障は身近。	82
社会保障 2	社会保障のレベル	昭和四七年以降、急速にレベル・アップしたが、歴史も浅く、国際的にはまだ低い。	83
社会保障 3	シビル・ミニマム	快適な市民生活を送るのに必要な最低基準。社会資本の充実ならびにその運営がポイント。	84
社会保障 4	高福祉には高負担が	社会保障をまかなうのは、結局は国民。負担との兼ね合いが適切でないと成長阻害要因に。	85
住宅 1	高・遠・狭のマイホーム	住宅価格は、サラリーマンの収入に比べて上がリすぎた。マイホームづくりは至難の業。	86
住宅 2	土地の値上がりが最大のガン	土地の値上がりは収入の伸びのざつと三倍。これがマイホームづくりを至難にした元凶。	87
住宅 3	安定成長期入りで事態は改善	地価上昇の鈍化と、住宅ローン充実のおかげで、住宅取得能力はこのところ回復気味。	88
住宅 4	著しい住宅ローンの拡大	かつてはマ子扱いだった住宅ローンも、安定成長期入りで一躍、準主役の座に登る。	89
住宅 5	金融機関別内訳は	総額はざつと三〇兆円、うち八割近くが民間ローン。公的ローンは主役の座を明け渡す。	90
住宅 6	住宅も量より質の時代に	一世帯当りの住宅数は一・〇八戸と住宅不足も数のうえでは解消。今後は「質」の向上へ。	91

年金1	一段と進む老齢化	「少産少死」の先進国型移行で、人口ピラミッドは円筒形に。高齢者人口比率は逐次上昇へ。	92
年金2	ディペンデンス・レシオとは	働き手に対する被扶養者の数は上昇傾向にあり、経済成長などへの悪影響が心配される。	93
年金3	崩れる年功序列賃金	社会の「老齢化」は、ポスト不足や年功序列賃金体系の終焉という形で中高年齢層を圧迫。	94
年金4	年金は老後の生活の柱	第二の職場では低賃金。退職金も昔ほどはあてにならない。余生の支えは年金で。	95
年金5	年金はいくらもらえるのか	ふつうのサラリーマンで二二・一三万円、公務員ならさらに有利。そして目減りしない。	96
年金6	楽観できない年金財政	働き手と年金受給者の数のバランス変化で、年金財政は苦しくなっている。	97
健康保険1	健康保険の功績は	健康保険制度の充実で安い医療はひとまず実現し、死亡率、寿命では世界一の優等生に。	98
健康保険2	健康保険のしくみ	いずれかの保険制度に加入する義務があり、保険料を払う代わりに医療費はタダになる。	99
健康保険3	健保制度の問題点は	差額ベットや付添い婦の負担に泣く人も多く、薬づけや老人サロンの問題もある。	100
健康保険4	医療倒産の危機	老齢化の進行で健保財政は悪化。政管健保は時速四六〇万円の赤字で「三K赤字」のひとつ。	101

4

*** 物価問題とインフレ

物価1	物価指数とは	個々の商品やサービスの価格を総合、平均化したもの。対象や作り方で多くの種類がある。	106
物価2	物価指数は実感に合うか	消費者には値上がり品目の印象が強く残るの で、平均値を示す物価指数には異和感を持つ。	107
物価3	牛肉の値段はアメリカの三倍	日本の小売価格を欧米と比べると、総じて食 料品は高く、繊維品やサービスは安い。	108
物価4	インフレとは、デフレとは	物価上昇⇨インフレ、物価下落⇨デフレだが、 どの程度からそう呼ぶかは明確ではない。	109
物価5	卸売物価安定・消費者物価漸増	戦後の物価は、卸売物価がほぼ横ばい、消費 者物価は四六％の上昇が続いてきた。	110
物価6	石油ショックと狂乱物価	石油ショックの影響で昭和四九年の卸売物価 は前年比三二％も上昇、大不況をもたらした。	111
物価7	インフレと暮らしへの影響	インフレは所得や資産に影響し、一時的に消 費意欲を高めるが、やがて抑制的に働く。	112
インフレ1	インフレの種類	物価上昇の程度によって三種類に、その原因 によっても数種類に分けられる。	113
インフレ2	ダイヤモンド・ブル・インフレとは	需要が供給を超過することによって生じるイ ンフレ。完全雇用でない場合も起こりうる。	114
インフレ3	コスト・プッシュ・インフレとは	コスト上昇が急なとき、利益確保のために販 売価格を引き上げることで生じるインフレ。	115

インフレ4	生産性格差インフレとは	生産性上昇の著しい産業の賃上げが、生産性の低い産業にも波及して起こるインフレ。	116
インフレ5	インフレを抑えるには	財政・金融政策によって需要を抑制するほか、所得政策、輸入自由化政策などがある。	117
インフレ6	インフレ・スライド制	賃金、年金、保険などを物価の上昇率に応じてスライドさせる制度のこと。	118
現代の物価1	スタグフレーションとは	景気が停滞（スタグネーション）しているのに物価上昇（インフレーション）すること。	119
現代の物価2	独占価格・寡占価格	独占や寡占などで競争が制限されている場合は、需給に関係なく物価が上がりやすくなる。	120
現代の物価3	物価と雇用のトレード・オフ	物価と雇用にはトレード・オフの関係があり、単純に物価を抑制すれば失業者は増大する。	121
現代の物価4	マネーサプライと物価	マネーサプライが変動すると、物価はやや遅れて同じ方向に変化するという関係がある。	122
現代の物価5	舶来品はなぜ高い	総代理店契約による輸入の独占などが多く、流通段階での整備や競争化が必要である。	123
現代の物価6	デノミネーションと物価	従来の貨幣の呼称単位を一律、機械的に変更することで、経済的な影響は本来中立。	124
現代の物価7	インフレ会計とは	物価の変動を取り除いた会計処理方式で、アメリカで一九七六年末以降、部分的に導入。	125

5

* * * 経済成長と景気変動

経済成長 1	景気と経済成長率	130
経済成長 2	戦後日本の経済成長率	131
経済成長 3	高度成長を可能にしたもの	132
経済成長 4	技術革新と設備投資	133
経済成長 5	成長と労働力の移動	134
経済成長 6	経済成長と国際収支	135
経済成長 7	高度成長から低成長へ	136
成長と福祉 1	高度成長の評価	137
成長と福祉 2	成長と公害	138
成長と福祉 3	ローマ・クラブの警告	139

経営者にとって好況とは販売や収益の伸びているときで、経済の高成長時と同じではない。

戦後日本の経済成長率は平均九%と、戦前の実績や、先進国の実績を大幅に上回ってきた。

「ひよな花、日本」の著者であるブレジンスキーは、二〇の要因を指摘している。

技術革新は、新しい投資分野の開拓、コスト低減にもつながり、設備投資を活性化させる。

高度成長に伴って第一次産業の労働者は減少、第二、第三次産業の比重が高まった。

昭和三〇年代までは、国際収支の赤字が経済成長率の天井の役割を果たしていた。

昭和四〇年頃から技術革新、労働力などで成長制約が生じ、石油危機が追い打ちをかけた。

高度成長は全体的には望ましい政策だったが、今後は社会福祉などへ重点を移す必要がある。

成長と公害にはトレード・オフの関係があるが、公害防止に重点を置く方が結局は得策。

「資源の制約から、成長率を抑制すべきだ」というローマ・クラブの警告は悲観的すぎる。